

支事變

芳澤謙吉大使

有名な呑氣坊

(下)

芳澤氏の人と爲りを紙面に登せ
てゐる中に、親爺さんの木堂翁は總理大臣になり、娘さんの春氣坊芳澤氏は外務大臣に決つたと云ふのであるから、たいしたものだね。愁うやつて此の記事を扱つてゐる記者は、芳澤氏とは同郷で、半道とは離れてゐない村續きだが、氏の出世は何んだが人ごとでないやうな嬉しさがする。本年四月までサンバウに居つた中島領事も、芳澤氏とは同じ高田中學出だし、郷里も二里とは離れてゐない近い所だから、今後に於ても何かと話が合ふだらう、それはそれで指して、呑氣坊の事を多少書き足して見よう。

聖市主要農產物相場表

…十二月現在…

名級	14日	15日	16日
品種	15400	15400	15400
潤砂	45.000	45.000	45.000
米	31.000	31.000	31.000
白米	36.000	36.000	35.000
三等品	31.000	31.000	30.000
内國品	17.500	17.500	17.500
豆(六十基)アラニニヨ	34.500	34.500	34.500
ミヨリオ(60基)アラニニヨ	11.000	11.000	11.500
マダガスカル内國品	18.000	18.000	18.000
マダガスカル内國品	16.000	16.000	15.800
アルゴドン五級品	58.000	59.000	59.000
マモナ(一基)中品	.570	.570	.580
アルフルアルフ(一基)	.200	.200	.200
豚脂(六十キロ)	157.000	157.000	157.000
馬油(二十キロ)	83.000	83.000	83.000
馬鈴薯(マレラ)上等	—	—	—
バナナ歐洲向十二房	42.000	42.000	42.000
石油(スタンダード二罐)	49.000	49.000	49.000
鹽(普通二十キロ)	4.200	4.200	4.200

…本相場表に聖市及サントス市場の相場

其の他参考にしたまし向

◆摘要◆

農產加工製品
げん 少 県 し

Dr. M. KONDA
MEDICO E OPERADOR
AV. 21 DE ABRIL - LINAS

大北博士
國伯士
學醫
リソス市裁判所前
電話一一四三

農產物に加工した製造品の本年

度の生産量は昨年の生産高に比

て著しく減少して居る即ち昨

年の一九三〇年一月より十月末迄

の生産高は二十一萬三千六百四

十六頃なるに本年同期の生産額

は十七萬二千二百五十一頃で實

に三萬一千三百九十六頃の減少

である故に本年はこの製品販

賣に可成不足を感じて居る。

このじうの生産高は五百五十六頃で多少の

増減はあるが他の殆んど減産である。

主要生産品及びその生産額を

摘要すれば

三五、〇四七頓

二、四七七頓

一、九八二同

一、三六九同

一九七同

豫算重要會合

明年度州政府

豫算案に關し重要會議が開かれ

ド氏は明年度歳出入豫算に關する編成方針及州財政状態を述べた

所だつて席上農務長官シルバ・ゴル

ド氏を議長に推し明年度州政府

豫算案に關す

所だつて席上農務長官シルバ・ゴル

ド氏を議長に推し明年度州政府

ソロカバナ 横
曩に報道したやうに、總領事館
移民部の福川薩然氏は、豫ての
紛争中のビエボ・サント・アナ
スタシオ土地問題調査の爲め、
去る四日ブ・ブルデンテに來着
ホテル・インタナショナルに投
宿して、ブルデンテ、ア・マツ
シヤード、サ・アナスタシオの
主なる邦人に面會し、裁判所の
係り判事がら聽取つた事を根據
として種々語す處があつたが、
幸ひに一同の諒解する所となり
徒らに疑ひや誤解を有たずして
納むべき測量費は納め、拂ふべ
き辯護士料は拂つて、各自所有
地の権利を確實にすることが當
面の急務なるを吞み得たは喜
ぶべきことなりとすると、斯くし
て目的を果した氏は、八日同地
を發し歸聖の途に就いた。

ロンド 視察記(下)

一 記 者

此のバラナ線を挾んで約五十糠
の幅員を以つて西へ進む五百糠
の森林地帯こそ珈琲栽培の絶好
地で、所謂北バラナの沃野とし
て屢々紙上に報道される地帶で
ある、珈琲はバラナ州の輸出港
たるバラナグワとはリオグラン
デ線のジアグアリアイバ驛で、
連絡するジヤカレジンニヨ驛よ
り發する鐵道と僅々二十三糠に
於てバラナ線と連絡する譯で、
工事完成の曉はサントス港に
搬出せずとも容易に輸出港バラ
ナグアへ直送し得るのである。
汽車がコルネリオ・プロコビオ
に着くと會社の乗合自動車に乗
り換へ、目下建設工事中の鐵道
沿線に沿ふてジヤタイに向つた
ジヤタイは戸數百戸の一寒村で
ティバジー河の近くにあつてリ
ブロコビオより六十糠、オリ
ジニヨスより實に百八十糠の奥
にある、ブロコビオ、ジヤタイ

内山總領事の
旅中談片



△補助金り性質
他力本願の補助金の聲を聞
くが、是れは決して堅質な開拓
建設の植民者として褒むべき事
でない、獨立自効、先づ土臺
は自ら築き上げること、補助と
は元々、も少し力を貸しても
へば立派なものになると云ふ意
は元々、も少し力を貸しても
は出來る性質のもので、形もな
い学校などに建設資金を出す
か、形評りの産業組合に莫大な
補助金を資金のやうに出すと思
はれては間違ひである。

御旅館

吉
出
し

理解なき結婚犠牲

哀れ花嫁—毒を呻る

無謀な離婚問題

著名教育家の家庭に

子の言葉をきく餘裕も與へず嫁したる家

やかな結婚生活が瞬間にして
被縊の嘆こぼれ、「胸の病のある
うら若い新妻が耐薬自殺を企
てた事件暴露し婦人間騒喧し
い折柄すべての家庭に切望な
宿題として呼びかけて居る

新婚一ヶ月で
早くも病の床に

「不如歸」もどきの内容を盛つて
此の事件は東京府立第三高女教諭西脇氏長男工學士西脇安氏
(二八)と同府立第一中學教諭桑掛氏三女ふみ子(二一)さんとの
結婚問題に始まる……名ある教育家の家庭のこととて話も急速に進み東京會館に華々しき一夜華燭の典が挙げられ、當時同窓の人々の間にも恵まれた新郎新婦としてせん望の的とへなつたものである

然しながら此のまことに新婚夢の僅か二ヶ月餘で破れぬならなかつた、結婚生活に深い憧憬を抱いて行つたふみ子さんは現實の餘りにも醜い姿の夫を離れて夫婦の間にも恵まれた新郎新婦としてせん望の的とへなつたものである

夫婦の間にも恵まれた新郎新婦としてせん望の的とへなつたものである

（追ひ跡して丁寧な人の世の情をさす）

